

◇◇ 1兆円のポテンシャルを持つ中国人観光客の消費市場 ◇◇

インバウンド客（訪日外国人）の増加が加速している。2014年は前年比27%で増加しており、年間1,300万人を突破する勢いである。これは、ビザ緩和やLCC就航などで海外旅行がより身近なものになってきたことと、アベノミクスによる円安効果が大きく影響していると考えられる。インバウンド客拡大の中で、圧倒的な存在感を示しているのが中国人観光客である。中国人の出国者数は年率2桁以上の増加を続け、近い将来、1億人の大台を突破する見込みである。一時期よりは経済成長率に鈍化の兆しが見えつつあるが、それでもGDP成長率は7%台という高水準にあり、所得水準の増加につれて、今後も中国人の出国者数の増加は確実なものと考えられよう。

インバウンド客の中で、旅行中の消費額が突出して大きいのも中国人観光客である。観光庁の調査によると、中国人観光客の日本での支出額は1人当たり約20万円という数字がある。この数字そのものも大きいですが、これは単に平均値に過ぎないため注意が必要である。成田国際空港の免税店で箱ごと買い物をし、キャリーカートを満載にしたうえ、両手にも土産品を抱えた中国人観光客を見かけることがある。このような観光客が、数十万円程度の買い物で済んでいるとは考えられず、おそらく100万円以上の高額消費者が相当数いるのではないかと推測している。現在、中国人観光客の日本での消費支出額は3,000億円程度であるが、観光客数の増加や所得水準の上昇により、今後10年で1兆円市場へ拡大することも夢ではないと考えている。

中国人観光客の消費市場は、地域経済にとっては大きな波及効果が期待できるマーケットである。例えば、クルーズ船の中国人観光客の団体ツアーに、地元商店街での観光や買い物を組み込んでもらおうと、中国の旅行代理店にまでプロモーションにいった事業者がある。この商店街はツアー誘致に成功し、大型バスの駐車場の準備や郷土芸能のイベント、中国人向けの観光案内所の設置などを行い、中国人観光客の受け入れ準備を整えていった。中国人観光客のなかには、旅行前から日本で購入したい商品をリストアップし、その商品を探して商店街の店舗をめぐり、集合時間の間際まで買い物をした中国人がいたそうである。中国人のMade in Japanへの購買欲求の大きさを改めて感じさせるエピソードである。

一方で、中国人観光客が日本を旅行している最中に困ったこととして、両替やカード払いなどの決済に関連すること、免税手続き時の書類作成での待ち時間や混雑、公共交通機関の情報入手や利用に関することなどを挙げている。これらの課題に対しては、ハード・ソフトの両面での対策を行うことで、より気持ち良く、満足感高く買い物をしてもらえる環境を整備することが求められると考える。地域もアイデアや知恵を出し尽くして中国人観光客をもてなし、地域経済への波及効果を最大化すべく努力する必要がある。

平成26年12月 公共経営コンサルティング部 宮前 直幸